



☒ (Ghost)

鳥越敦司 atushi torigoe





さて、幽霊と湿気については関係があるとも言われる。例えばタクシーの運転手が女性を乗せて、後でいなくなったのに気づいた時に、座っていたシートは濡れていたとかいう話がある。私が東京都町田市のマンションで部屋の中に観葉植物など湿気が高くなるもの、容器に水をいれて置いていたりもした時のある夜、ふっと何か部屋に入ってくる気配がした。Machida, 私は布団に寝ていたが、いきなり両手を押さえつけられた感じがした。Futon, でも、その時は何も見えなかった。そのうち、その何者かは出て行ったのだろう、両手は自由になった。それで、湿気と関係があるのかなと思い、水やなんかを捨ててしまったら、二度とそういう事は起こらなかった。

今、これを書いている時、外は雨が降っている。昨日は一日中雨だった。こういう時こそこんな話、実話を書いてみたくなるのも心霊、幽霊は湿気を好むのかもしれない。

最初の実話は福岡県福岡市、もっと書けば早良区での話である。Fukuoka, Sawara-ku, ほんとに私はそれまで幽霊を見なかった。華厳の滝に行っても何も見えなかったし、何も感じなかった。Kegon Falls, 自殺の衝動にも駆られなかった。

初めて見てからは、その後、神社などに行くときと掛殿のところでも神霊と思われる人の姿を見たりするようになったのだが、最近は神社にも行かないので神霊を見ることもなくなった。

又、機会があれば書いてみることにする。



■■■■■■■■■■ (Ghost) ■■■■■■■■

<http://p.booklog.jp/book/105594>

著者：鳥越敦司 atushi torigoe

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/dontanine/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/105594>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/105594>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ